

## 平成 29 年度事業報告

### 1 公益目的事業

#### ① 対馬丸記念館の管理運営事業

対馬丸記念館の管理運営に資するよう事業の円滑な遂行に必要な協議を行うために内閣府、県及び厚生労働省(オブザーバー参加)の関係部署並びに対馬丸記念会を構成員とした「対馬丸平和祈念事業協議会」を2回開催し、来館促進等をテーマに協議した。

#### ア 常設展事業

公益財団法人として記念館の展示を通して対馬丸事件の歴史と教訓を伝えながら、二度と悲しみを繰り返さない「学びの場」、平和の種を蒔く施設として平和の発信に一層努める必要があり、来館者の安全確保、室内環境の改善の為に以下とおり実施した。

- ①エレベータ基盤取替え 286,200 円
- ②1階展示室換気扇取替え 64,800 円
- ③2階展示室空調機基盤取替え 118,800 円

#### イ 特別展事業

(ア) 「沖縄タイムス社主催第 65 回全琉図画・作文・書道コンクール 一那覇秀作展一」開催 期間：平成 29 年 12 月 23 日～平成 30 年 1 月 28 日 観覧者 1,260 人

展示作品：那覇市内小学校 129 点、中学校 100 点(図画・作文・書道の最優秀賞・優秀賞)

地域や学校、子供達など多くの人々と当館をつなげ、感性と知性の調和のとれた子供の成長を促すと共に、子供たちの自由な表現から改めて平和の大切さを感じてもらうことを目的として開催した。作品が展示される児童生徒に対しては、絵葉書を送って開催案内をした。

作品観覧にきた同伴者の内訳：家族 72.6%、個人 11.5%、友人 3.8%、その他 12.1%であった。展示会を通して児童生徒、家庭等との結び付きを強め対馬丸のことを知って貰う機会になった。

子供達の興味をひき、主体的学習を導くために、案内役のキャラクター(キヨシ君、ケイコちゃん)による対話式案内板を作成し掲示した。(273,240 円)

(イ) 「ヒロシマ・ナガサキ原爆パネル展一核兵器も戦争もない平和な世界を願って一」開催 期間：平成 29 年 8 月 11 日～9 月 3

日 観覧者 1,228 人

唯一の被爆国である日本について考え平和への意識を高めることを目的とした。原爆被害の実体、核実験や核兵器の開発の現状について広島平和記念資料館よりパネルを借用して展示。併せて、「はだしのゲン」や「夏服の少女たち」、「ヒロシマ・母たちの祈り」などの上映と子供向け絵本コーナーを設け幅広い世代に学べる場をつくった。

プレイベントとして「瀬越睦彦氏による被爆体験講話」(7月2日)を開催した。参加者 60 人

対馬丸事件や沖縄戦とあわせ各地の戦争の実相を知ることによって太平洋戦争を広くとらえ、改めて戦争、核兵器の恐ろしさ、命の尊さについて多くの人々に考える機会を提供した。

ウ 対馬丸及び学童疎開に関する調査・研究事業

対馬丸の悲惨な歴史に関する証拠資料の収集に努め、学童疎開について調査研究をした。

エ 来館促進支援事業

対馬丸事件の史実を伝えるとともに、来館促進を図るために県内にある公民館(392)、老人連合会(46)、自治労加盟労働団体(53)及び女性団体連絡協議会(24)に対しリーフレットを送付した。

来館者の利便性の向上に資するために館内設備、展示設備の取り換え等を以下のとおり行った。

- ① 証言ブースの動画再生ソフト、ベンチ、タッチパネル等の取り換え 月額使用料 150,120 円
  - ② プロジェクターの取り替え 月額使用料 41,688 円
  - ③ 刻銘版張り変え、遺影修復 502,308 円
- 平成 29 年度入館者数…添付 (p 8)

② 対馬丸戦没者の追悼と遺族等の福祉の向上並びに地域住民との交流促進

ア 対馬丸戦没者の追悼と慰霊祭の挙行

8月22日に小桜の塔前で慰霊祭を挙行し遺族、生存者、関係者で犠牲者の冥福と世界の恒久平和を祈念した。

参加者約 450 人

イ 語り部事業

生存者や遺族等の語り部による県内外での講話、小中学校等からの依頼に応じて講話実施。講話実績 延べ 149 回 内訳：館内

78回・館外71回（県外12回を含む。）受講者：延べ17,344人

#### ウ 相談事業

那覇市社会福祉協議会の資格を有する経験者に依頼し第2・第4木曜日に（22回）デイケアを行い、その他健康や各種年金に関する事など遺族、地域の高齢者等に対し助言・相談を行った。

#### エ 講習会及び遺族と地域住民との交流促進

遺族等が健康で不安なく生活していけるよう、医療関係者や対馬丸の歴史や平和活動など様々な活動を行っている方を講師として、年2回「ちゃーがんにじゅー講座」開催

#### (ア) 平成29年12月9日（土）

講師：歯科医師 高良政勝 歯科医師 新庄美由紀  
歯科衛生士 石垣奈々恵

テーマ 「食べる力は生きる力」 参加者：88人

健康なときには不自由なく食べることができ、その大事さに気付かないが、虫歯や歯周病を放置しておく、口内で繁殖する雑菌により、肺炎や糖尿病の原因となることがある。また、加齢とともに咀嚼機能が低下する為、定期的な歯科医師の診療が必要である。

何時までも健康な歯で食べ続けることにより、病気による身体、精神的負担を防ぎ、食事や社会生活を楽しむことが家族の団らん、生きる喜びや希望を与えることが分かった。

#### (イ) 平成30年2月24日（土）

講師：NPO法人沖縄県沖縄語普及協議会  
楚南光子・嘉数美津子

テーマ 「広みらな沖縄グチ」 参加者：101人

近年の核家族化、若者が年配の人と接する機会の減少により、方言離れが加速している。しまくとぅばの消滅は沖縄文化の衰退に繋がり次世代への継承を目指す目的で講話が行われた。古典芸能で使われている「首里方言」での講演が行われた。

学校行事などでも「沖縄グチ」へ触れる機会をつくるなど、方言を普及し、県民の郷土愛を育てる大切さが分かった。

#### オ 広報活動

広報誌「対馬丸通信」を2回発行。遺族や生存者及び協力会員、支援者などに配付し、対馬丸記念会の活動紹介と対馬丸記

念館の運営状況等を広報した。

那覇市内の小中学校に対して、対馬丸のことを継続して発信するために、那覇市教育委員会を經由して那覇市内全小中学校(54校)に對馬丸通信を配付した。

県議会議員及び那覇市議会議員へ對馬丸通信を配付した。

③ 子供達に對馬丸の悲惨な歴史を伝え平和を発信する事業

ア 子供達の平和学習推進事業

(ア) 平和学習推進連携委員会を2回開催した。

那覇市教育委員会指導主事(平和行政担当)、平和専門家、那覇市内小・中学校教師各1名、對馬丸記念会理事長の5委員で「小・中学校平和教育研修会」、「平和学習作品展」等の実施について協議・決定した。

(イ) 那覇市教育委員会及び浦添市教育委員会と共催で小中学校合同平和教育研修会を5月と8月に2回開催した。(浦添市は8月のみ)

(ウ) 對馬丸事件に関し、遺族、生存者、県平和祈念資料館等の関係資料の聞き取り調査を実施した。

(エ) 資料のデジタル化に向けて對馬丸遺族会資料、對馬丸記念会資料、展示用収集物の資料の読み込み、写真撮影、目録作成を行った。

イ 子供達による平和活動発信事業

子供たちが日常的、主体的に平和活動、平和発信が行えるようにすることを目的として、「つしま丸児童合唱団」(活動日4回/月・於：記念館)の活動を推進した。(団人数25人)

合唱団は、6月23日の「沖縄全戦没者追悼式」、對馬丸慰霊祭、那覇市戦没者追悼式等に出演して活動の成果を披露し、観客とともに平和への誓いを新たにした。

子供の視点から平和発信する「平和のひろば」コーナーに沖縄ろう学校中等部及び開南小学校6年生の記念館見学感想文、若狭小学校の学習発表会・對馬丸の劇、平和集会、小桜の塔の清掃活動など、また、大分県別府市のいつくしみの聖母児童館が作成した紙芝居「つしままるのはなし」を展示した。

2 収益事業「物品販売・会議室賃貸事業」

実績：自動販売機2台の販売手数料収入 128,186 (円)

書籍「對馬丸 沈む」の売上金収入 33,980 (円)

3 その他事業「旭ヶ丘公園周辺緑化事業」

旭ヶ丘公園において白い花の咲くクメノサクラ2本を昨年度に引き続き植栽（10,000円）

4 法人会計「管理事業」

対馬丸記念館の管理運営を実施すると共に、対馬丸記念会理事会及び評議員会の開催、庶務経理業務等を実施した。